

第10回 公式訪問報告

第10回 総会&現地報告会

《東京》9月15日(日)小金井市民交流センター
《大阪》11月23日(土)高槻現代劇場文化ホール展示室
申し込み開始! 参加お待ちしております!



生徒の集合写真やサプタル校長の写りが載ったファイルを手を下校する子どもたち



やっと新校舎がオープンした。鍵を持った用務員さんがまだ来ないで、入口の階段で座って待っている1〜3年生の生徒たち



満開のアンズの木の下で、何やら楽しそうに話していた2人。カメラに気付くと、「えっ、撮ってたの」。向こうには耕された畑、ハンカールの春でした



居間から台所につながる廊下で、料理の合間に勉強するファトナ(故サプタル校長の長女)。旧ソ連軍の弾薬箱が机だ



幼い弟の手を引いて下校する



子どもたちが撮った写真が載った昨年の会報に見入る6年生

皆さま、お元気でお過ごしでしょうか。今年の公式訪問団は4月2日に日本を発ち、当初の目的を果たしたのち、帰国いたしました。

現地ポールランデは、雪は少し残っていたものの、アンズがたくさんの蕾を膨らませ、いまにも花開こうとしている時期でした。現地で最初に目にした光景。それは5年越しの念願だった新校舎に子どもたちが通う姿です。新校舎の3学年、本校舎の6学年の子どもたちが元気に登校し、それぞれの教室で勉強にいそしむ姿を見ると、「本当によかったなあ」と思います。

悲しい出来事もありました。1年生の担任であるカリマ先生が私たちが帰る前日に急死されたのです。幼い子どもたちに母親のように接し、噛んで含めるように教えていたカリマ先生。

「子どもたちはみんなオマール(私の現地名)たちがやってくるのを楽しみにしているのですよ」と感謝の気持ちを込めながら話しかけてくれる優しい先生でした。訪問時には必ず自宅での食事に招いてくださり、山のような御馳走を振る舞ってくれました。昨年、彼女の家の窓から見えた満開のアンズの花の美しさが目に浮かびますが、ポールランデの人々と子どもたちにとっては今年には悲しい花見となるでしょう。心からカリマ先生のご冥福をお祈りいたします。

いよいよ来年はアフガニスタンの大統領選挙の年。清新な指導者の登場を心から願いながら、今年の活動に励みたいと思います。

皆様とは9月、最後の総会でお会いできることを念じております。

長倉洋海

第10回アフガニスタン公式訪問



公式としては今回で最後となるアフガニスタン訪問。訪問団の滞在は、4月3日から10日まで。長倉代表のレポートです。

4月3日(水) イスタンブール(トルコ)経由で、首都カブールに。空港で安井さんとアクバル(ヤシンの先生の弟)の出迎えを受ける。今回のメンバーは私と会計の森、記録の高橋。それと特別授業をしてもらう元理科教師の中道さん、ルバープ奏者の佐藤さんの計5名。

4日(木) は買い物。

5日(金) 交流会用のケーキや果物、通学ザックなどを積み込み、2台の車でパンシールへ向かう。2時間半後、峡谷内に。あちこちに派手な色彩の2階、

山の学校に荷を降ろし、故サズディンの家に。夕食を御馳走になりながら、息子たちと父親の話に。タリバーンに家を焼かれ逃れてきた難民を見て、「胸が張り裂けそうだ」と懸命に手助けしていたサズディンの姿が懐かしくなる。

食事後、佐藤さんと山の上のドロナ集落のサフダルの家に向かう。出迎えてくれた長男のサタールはバザラックで建築の手伝いをしていて、毎朝4時半に起きて、下の町向かうという。

6日(土) 朝、迎えに来た子どもたちと一緒に学校に向かう。川沿いの新校舎に3学年が入っている。1年の教室は崖側で、窓には紙の覆い。落石でガラスが割れたようだ。陽もあたらず寒い教室、しかし、新たな一歩だ、と胸があつくなる。

3階建ての近代的豪邸が見える。途中、マスードの廟で献花するが、

墓守の戦士たちもずいぶんと老けた(もちろん私も)。いまも薄給の彼らと、政府の要職につき豪邸を建てて人との乖離に怒りがわく。

6つの教室がある本校舎で、先生と再会。生徒に持参した日本製のクリアファイルを配る。表は全校生徒の記念撮影の写真。裏には故サフダル校長と私。子どもたちは自分の姿を見つけて、大喜び。ファイルを見るたびにサフダルのことを思い出してくれるだろう。

下の村のバザラックから上がってきた女性メンバーたちと合流。中道さんの顕微鏡を使った授業と佐藤さんのルバープ演奏会を準備する。通訳は安井さんがしてくれるから万全だ。子どもたちはプロ奏



交流会でもらったオレシダとバクサを家に持って帰る1年生。左端にカリマ先生が見える

者の演奏に興味津々だ。ケーキ、果物、ジュースで子どもたちとの交流会。放課後、ホルム先生の家で昼食。12人の子がいてにぎやかで楽しい。

7日(日) 1年生への通学カバン配り、全学年へのノート、ボールペンの配布。次は成績優秀者(4〜9年)への賞品贈呈。今年も来てるのか」と心配そうに話しかけてきた。「大丈夫、来年も来るよ」と答える。

昼食は、用務員のモハマディーンの家。ヤギの干し肉が出た。美味だった。校長の話では彼はこの春で学校を解雇されるという。経費節減の結果だが、11人の子どもがおり、生活がどうなるのか。宿直者が1名になって、2つの校舎をどう警備するのか。同行メンバーと協議、彼の給与の補填を決めた。

8日(月) 学校で2〜3年の成績優秀者への表彰と1年生の名簿用の写真撮影。それから理科と音楽の特別授業。そのあと、学校の卒業生で、いま高校生の5人の女の子が学校に来てくれたのでインタビューをする。皆、弁護士や医師になりたいと将来の夢を語ってくれた。昼食はシーラの家。その後、一家へのインタビュー。



満開のアシズの花の下で畑を耕す。8年生のナウイド(ホラ公先生の長男)が手伝っていた



佐藤さんの演奏で踊る3年生のラーンエツドと手拍子をとる子どもたち

昼食後、ナイマを訪ねる。8年生だが、学校を休んだまま。彼女は「父親が『学校に行かずに家の手伝いをしろ』という。泣いて抗議したけれどダメだった」と話す。高校に通っていたローヤとアケラも父親に「学校はもういい」と言われ、通学を断念した。しかし、みんな口をそろえて「学校に行きたい」という。アケラは「父親は結婚というけれど結婚は25歳でも30歳でもいいと思ってる」という。

アミンの姉のナフィサは、病気がちの母親を手伝うために学校を休んでいた。アミンとサミールは今日は学校を休んで山に放牧に向かった。昨年まで雇っていた牧童と賃金の折り合いがつかず、また子どもたちが働くことになってしまったのだ。学校に行けない子らを前に虚しさに襲われるが、勉強という機会がまったくなくなっただけではないと自分を納得させるしかない。

9日(火) 転入生の写真を撮る。各教室に会報を貼る。日本の支援者からいただいたサッカーボールを地区別に配る。アミンの家で昼を御馳走になった後、サファダルの家で、家族と話し合う。安井さんの友人がやっているNGOで、下の3人の小児麻痺の子どもたちのリハビリを受け入れてくれるとのこと。下のバザラックに家を借りたらどうかと提案。首都カブールに通院しやすくなるし、リハビリが進めば、兄弟への負担も減るからだ。

10日(水) 公式訪問の最終日。



コンテナ教室で2年生に教える在りし目のカリマ先生(2012年)

アブドラーの家に招かれる。そこで出会った若者は「外国からの支援も75%は幹部たちの懐に入ってしまう。上が腐敗していれば、下もそれに倣う。この国を変えるためには新しい指導者が必要だ」と訴えた。この国に真の変革が訪れることを願いながら、帰国の途についていた。



アミンの家に集まってくれたアケラ(左)とローヤの姉妹とナフィサ(アミンの姉)

朝、学校でメンバーたちから「カリマ先生が急逝した」と聞く。昨日まで元気でいたのに信じられない。先生たちもみな悲痛な表情だ。脳溢血だったらしい。今日から数日、学校も喪に服して休みになるという。

首都カブールに戻ってから、来年の大統領選に立候補予定のドクター・

事務局から

- 第10回総会・現地報告会のご案内と申し込みがきを同封いたしました。今回が最後となりますのでたくさんの方のご参加を心よりお待ちしております。
- 前回たくさんの方からご注文いただきました「アフガニスタン山の学校支援の会10周年記念オリジナルグッズ」のチラシも再度同封しております。総会会場での販売もいたしますが、今回ご注文の方を優先いたしますので、お気に入りの色と柄をご希望の方はお早めにお願いたします。また、今回の現地訪問で子どもたちへのプレゼントとしましたクリアファイルも販売できることになりました。こちらもチラシを同封しております。
- 2013年度分割会費の納入、ありがとうございます。未納の方には再度、振込用紙を同封いたしましたので、残額会費を納入をお願いいたします。会費の残額は封筒宛名ラベル下段に表示されている数字です。
- JVC国際協力カレンダー2014「心のお陽さま」(安田菜津紀撮影)の案内チラシと申し込みがきを同封いたしました。カレンダーは壁掛け用1500円、卓上用1200円の2種類です。収益の一部は当会に協力金として還元されますのでどうぞお買い求めください。なお、カレンダーは東京の総会・現地報告会と大阪の現地報告会でも販売の予定です。
- 不要切手、書き損じはがきのご提供、いつも大変助かっています。今回も会報送料の一部を賄うことができました。引き続きどうぞよろしくお願いたします。
- 会報を発送するたびに宛先不明で事務局へへの返送があります。住所変更の際はお手数ですが事務局までご連絡ください。
- 日頃のご支援に感謝をこめてポストカード2枚を同封させていただきましたのでどうぞ活用ください。

今年の総会イベント

昨年ステキな講演をしていただいた江藤セデカさんと留学生にアフガニスタンについて語っていただきます。また、今年もこれまでのパネル展で使用した写真の販売を予定しています。どうぞご期待ください。

みんな大集合!!
今年最後の総会だよ



INTERVIEW

今年の訪問時に会ってきた今は高校に通う山の学校卒業生のインタビューをお伝えします。

インタビュー①

Q 高校を卒業したらどうしたいですか？

シャボナ (10年生=日本の高校1年生) 教員養成学校に行って教師になりたいです。

マディナ (11年生) 大学に行って医者になりたいです。

ライハナ (12年生) 大学に行って法学部か経済学部に入りたいです。

シャーズィア (12年生) 大学に受かったら法学を学びたいです。

ウイダー (10年生) 医者になりたいです。難しいけれど勉強したらできると思います。

*大学のコンクール(入試)を受けて、その成績の順に行ける大学が決まる。ほとんどの子は、兄弟や親せきを頼り、カブール大学に通うことが可能。最難関はカブール大学。(パシールの)ダシュタックにも大学があるが医学部や法学部はない。新たな学部も増設の可能性あり。

Q 大学進学希望について、両親の反応はどうですか？

特に何も言われていないです。

Q もしもお父さんが結婚相手を連れて来たらどうしますか？

勉強すると決めたのだから、今は結婚しません。

Q 結婚したら仕事はやめたいですか？

仕事は続けたいし、続けるべきだと思います。

Q 同世代の多くは10代で結婚しているけれど、自分は気にしないですか？

まわりが結婚しようとか関係ないです。私は私の道を行くのだから。(お嫁に)行き遅れることについてなぜ後悔しなればならないのですか？

Q この国のこれからどんな希望をもっていますか？

この国を外から見ている人は治安のことを気にしているようですが、戦争時代より平和であり、タリバン政権下の時より見違えるほど良くなっています。

2014年に外国軍の撤退があるので、それが事無く過ぎれば良くなると思います。先のことはどうなるかわからないけれど。

Q これまでの山の学校の会の支援はどうでしたか？

給与支援があるから、先生もここに来られて私たちも勉強を教わることができました。車の支援がなかったら先生も来られなかったと思います。ノートやペンなどの支援もとてもよかったと思っています。

Q 日本という国を近く感じるようになりましたか？

この支援によって近くなったと思います。

Q ポーランドの学校で過ごした9年間の一番の思い出は何ですか？

山の学校の皆さんが来てくれたことすべてが思い出です。楽しかった思い出は…雪合戦、マジックショー、スイカ割り、なわとび、自分が写っている写真を探したりしたこと。



パディヤ



ライハナ



シャーズィア

Q 10年後何をしていますか？

ライハナ 弁護士になっていたとしたら、この国や女性のために働きたいです。経済学を勉強したら、ビジネスウーマンになっているかもしれないです。お金を稼ぐことができたならこの学校のために必要なものなどを買いたいと思います。

シャーズィア 弁護士となって法を守らない人を排除していきたい気持ちがあります。

ウイダー 医者になってアフガニスタンの人のために治療にあたりたいです。

シャボナ ポーランドに戻って来て教師をしたいです。

マディナ 今ここには診療所もなく医者もいないので病気になったらカブールにいかなくてもなりません。医者としてここで活躍したいです。



シャボナ



インタビュー②

Q 山の学校と他校の違いは何だと思えますか？

シュワイブ (10年生) 他の学校は山の学校と比べて先生の数が足りない気がします。リセ・バザラックの友達は、先生がいないことが多かったと言っていました。山の学校はそんなことはありませんでした。

Q 遠いけれど、毎日通っていますか？

通っています。行きは1時間で降りて、帰りは2時間から2時間半ぐらいかかります。

Q 帰ってきてから家で勉強する時間は取れていますか？

大丈夫です。

Q 家では、どんな手伝いをしていますか？

父さんと畑仕事をしたり、山に牛を連れていったり、弟たちの面倒を見たり。料理はしませんけれど(笑)。

Q 将来は何になりたいですか？

建築関係のエンジニアになりたいと思っています。

Q そのためには、どこまで勉強しなければならないのですか？

大学の試験は受けます。

Q お父さんは彼を大学に行かせることをどう思っていますか？

父 もし、そうなったらとてもうれしいことです。

Q 女の子たちが勉強をして医者など職業を持つことをどう思いますか？

父 私は52歳になりますが、私自身が就学経験もなく読み書きもできず、いつも思い悩むことがありました。学校に通えなかったからここで農業をしています。子どもたちが勉強したいというのであれば大賛成です。自分がしてきたような思いは、子どもたちにはさせたくありません。娘は眼の具合が良くなって去年は学校を卒業できなかったから、今年は復学してくれたらと思っています。

Q シーラは学校に戻れるといいですね。

シーラ (9年生) 太陽の光から眼を守るためにクリーム、目薬、メガネが必要です。同級生は卒業してこの春から高校に通っています。私も早く卒業して高校へ通い、将来は医者になりたいです。



シーラ



〒187-0032 東京都小平市小川町1-1071-15 比留川 文付
FAX&留守番電話: 042-345-7805 E-mail:info_yamanogakko@yahoo.co.jp
http://www.h-nagakura-nel.yamanogakko
郵便振替口座: 001601-667404
編集:大野みか 監修:柴 大守 絵 水間真紀
題字:近藤理恵 デザイン:浅井亮志 印刷:藤田印刷(株)

テラガニスタンの学校支援の会は、写真家・長倉洋海が取材活動を通して出会った、パシール渓谷ポロラツ村の子どものための教育支援を目的として設立された非営利の団体です。2004年2月に設立、以後2014年3月までの約10年間にわたり活動を続けていきます。